

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 20 日現在

機関番号：82619

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370149

研究課題名(和文) 模写資料における書の受容・鑑賞に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Basic study on reception, appreciation of the Calligraphy in the copying document

研究代表者

恵美 千鶴子 (EMI, Chizuko)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部東京国立博物館百五十年史編纂室・主任研究員

研究者番号：60566123

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：東京国立博物館、九州国立博物館、京都・陽明文庫、大阪歴史博物館などで、書の模写資料や関連資料の調査を実施した。その内、東京国立博物館の模写資料については、高精細デジタル画像によって撮影を行ない、680点の画像を東京国立博物館のホームページ上で公開した。他の所蔵者の画像も一部、東京国立博物館の画像システムに登録し、閲覧できるようにした。

模写資料や関連資料の調査とデータ収集により、書の受容や鑑賞の歴史に関する研究を進めた。その研究成果は、学術雑誌で連載したほか、学術論文として発表した。また、東京国立博物館にて、特集「国宝再現 - 田中親美と模写の世界」という展示で成果公開を行なった。

研究成果の概要(英文)：Investigated copying document, and related document at Tokyo National Museum, Kyushu National Museum, Yomeibunko(Kyoto), and Osaka-Museum of History. Photograph a High-definition digital image of the copying document of the Tokyo National Museum. Showed approximately 680 points of images on a homepage of the Tokyo National Museum. Part of image of the person of other possession enrolled in an image system of the Tokyo National Museum and allowed to read it.

By an investigation and the data collection of a copying document and the related document, I did a study on history of reception and the appreciation of the Calligraphy. Published it serially with a learned journal and announced the results of research as a treatise. And showed results of research by display of the Tokyo National Museum.

研究分野：日本書跡史

キーワード：書跡 模写 模本 鑑賞史 受容史

## 1. 研究開始当初の背景

書の作品に関する研究は、小松茂美による「古筆学」の確立により、それ以前の筆跡中心の研究から、絵画や文学、歴史、社会学など様々な分野を取り入れた学際的研究がなされるようになり、飛躍的に進んだといえる。特に、小松茂美編『日本書蹟大鑑』(全25冊、講談社、昭和53~55年[1978~80])は筆者の明らかな筆跡を集大成、『古筆学大成』(全30冊、講談社、平成1~5年[1989~93])は、平安から鎌倉時代の歌書を中心とする卷子・冊子・断簡を集大成し、これらの編纂を機に書の作品を研究対象とする人が増加してきた。そこで、本研究課題では、これまで注目されることの少なかった模写資料に焦点をあてて、新しい視点として、書の受容や鑑賞に関する研究を行うこととした。

書の創作をする際に「写す」ことは基本的な訓練となる。また、写真やコピーのなかった時代は「写す」ことが様々な意味で重要であった。古代から、人々は先人の名筆を写し続けてきており、原本(真跡)の残っていない模写も多いため貴重である。原本の原初形態、経過過程を把握することもできる。そして、いつ誰が模写したのかが推定できれば、当時の書の鑑賞のあり方が浮かび上がってくる。近年、書に関する展覧会が各地で行われ(東京国立博物館、根津美術館、京都国立博物館、奈良・大和文華館など)、入場者数も増加の傾向にあり、「書道ガールズ」等により書に関心を持つ人が増えてきている。しかし、依然として「書の見方がわからない」という声も多い。模写資料により書の鑑賞の歴史を考察することで、「書の魅力」を提示できる。「魅力」を検討することは、書の作品の価値付けをすることにもなり、ひいては書道という文化を支え、文化財保護にもつなげることができる。さらに、書の研究にも新たな道筋

をつけることができるであろう。

ところが現状では、「模写」というだけで作品的価値が低く見られ、展示の機会も少ない。写真も無い場合が多く、研究も一部をのぞきほとんどされてこなかった。本研究では、できる限り多くの模写資料を公開することも課題として定めた。

## 2. 研究の目的

本研究は、書を中心とする模写資料について、詳細に調査研究するものである。模写資料はこれまで、真跡(直筆、原本)研究の補助的な役割を担い、それ自体が注目されることが少なかった。模写は、真跡を記録するだけでなく様々な要素があるが、本研究では模写資料を調査することによって、書の受容や鑑賞の歴史を明らかにしようとするものである。また、今後の研究者のために、調査を完了した資料については許可を得てインターネットに公開を予定している。さらに、申請者の勤務する東京国立博物館において真跡と模写を合わせた展示を企画し、模写を通じた鑑賞を提示し、多様な鑑賞のあり方を示すことを目的とした。

## 3. 研究の方法

### (1) 模写資料の撮影

模写資料を、①原本の通りに模写する模本(以下、模本)、②原本を横に置いて見ながら写す臨書(以下、臨書)、③原本を版木におこすなどして刷り出す拓本(以下、拓本)の三種類に分け、まずは、①模本、②臨書を中心に全場面の撮影を行い、③拓本については、①、②と関連のある資料を優先的に撮影する。東京国立博物館所蔵分については、①、②をインターネットの画像検索のページで公開し、国内各地に所在される資料についても、所蔵者の許可の下りたものについては公開する。

(2) 国内に所在する模写資料の比較検討による調査研究

本研究代表者の恵美は、これまで継続的に「平家納経(模本)」(東京国立博物館蔵)から模本制作者たちの受容と鑑賞について考察してきた。本研究課題で、「平家納経」原本(広島・厳島神社蔵)、あるいは別本の「平家納経(模本)」の調査を行い、さらに新たな「平家納経」研究へ発展させる。このため、関連性のある資料を中心に出張調査を行う。

また、とくに模写資料を多く所蔵すると思われる所蔵先(例：京都国立博物館、京都・陽明文庫等)では、模写資料の目録の入手とデータ化を進める。

#### (3)書の受容や鑑賞に関する個別研究

東京国立博物館や国内に所在される模写資料について、江戸時代や明治時代に出版された刊行物などの関連資料も用いながら、代表者と分担者独自の研究を行う。研究成果を、東京国立博物館の展示解説などで随時公開するとともに、報告書などの印刷物、さらには研究誌『MUSEUM』等への論文発表を行う。

#### 4. 研究成果

(1)東京国立博物館所蔵分を中心に模写資料の高精細デジタル画像での撮影を進め、東京国立博物館のホームページ上で、680点の画像公開を行った。また、他の所蔵者の模写資料についても撮影を進め、一部は、東京国立博物館の画像システムに登録して閲覧できるようにした。

(2)東京国立博物館、京都・陽明文庫、京都・東山御文庫、大阪歴史博物館、九州国立博物館、個人所蔵分などの模写資料や関連資料の調査を実施した。関連データの収集、分析もあわせて、書の受容・鑑賞の歴史に関する研究を進めることができた。その成果を論文で発表した。また、東京国立博物館の展示施設にて、特集「国宝再現 田中親美と模写の世界」(平成26年)、特集「藤原行成の書 その流行と伝承」(平成28年予定)という展示を企画し、研究成果を広く公開した。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計14件)

恵美千鶴子、「西郷隆盛の書と『七言絶句官途逃去遠捜奇』の普及 小林清親筆『西郷隆盛像』との関係から」、東京国立博物館研究誌『MUSEUM』661号、2016年4月、33-50頁、査読有

恵美千鶴子、「藤原行成筆『陣定定文案』の書誌・伝来」、田島公編『禁裏・公家文庫研究』5輯、思文閣出版、2015年3月、137-165頁、査読無

恵美千鶴子、「博物館制作『厳島神社蔵経模本』 - 明治の人々が見た『平家納経』」、『MUSEUM』651号、東京国立博物館、2014年8月、6・41-76頁、査読有

恵美千鶴子、「『和様の書』鑑賞の歴史」、特別展図録『和様の書』、読売新聞社・NHK・NHKプロモーション発行、2013年7月、250-255頁、査読無

恵美千鶴子、「日本における王羲之『蘭亭序』の受容」、『MUSEUM』643号、東京国立博物館、2013年6月、3・5-34頁、査読有

恵美千鶴子、「和様の祖『小野道風』受容史」、『聚美』8号、青月社、2013年6月、40-55頁、査読無

〔図書〕(計3件)

恵美千鶴子ほか著、塩谷純編『天皇の美術史』近代編、吉川弘文館、2017年3月予定

恵美千鶴子ほか著、奈良国立博物館編『正倉院宝物に学ぶ』、思文閣出版、2016年中発行予定

島谷弘幸編著、恵美千鶴子ほか著、『料紙と書 東アジア書道史の世界』、思文閣出版、2014年3月、査読無

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

恵美 千鶴子 (EMI, Chizuko)

独立行政法人国立文化財機構・東京国立  
博物館・学芸企画部東京国立博物館百五  
十年史編纂室・主任研究員

研究者番号：60566123

(2)研究分担者

島谷 弘幸 (SHIMATANI, Hiroyuki)

独立行政法人国立文化財機構・九州国立  
博物館・館長

研究者番号：90170935